



報道関係者各位

2026 年 10 月 14 日(水)

デジタルハリウッド大学[DHU] 先進的な AI を、全学生の「自分の道具」に Anthropic の生成 AI モデル「Claude」を 国内大学初となる全学導入へ



全学生・全教職員が Anthropic 社の生成 AI「Claude」を 2026 年 11 月より利用可能に

文部科学省認可の株式会社立の大学として、デジタルコンテンツと企画・コミュニケーションを学ぶデジタルコミュニケーション学部(4年制大学)と、理論と実務を架橋し新たなビジネスを生み出すデジタルコンテンツ研究科(専門職大学院)を設置するデジタルハリウッド大学(DHU、所在地:東京・御茶ノ水、学長:藤井直敬)は、米 Anthropic PBC(以下、Anthropic)が開発・提供する生成 AI モデル「Claude」を全学に導入し、全学生・全教職員が利用できる環境の提供を 11 月より開始します。

本学の学生は大学が発行するアカウントで、最先端の AI モデルを利用量や費用を気にすることなく利用できます。

尚、日本国内の大学における「Claude」の全学導入はデジタルハリウッド大学が初(※)となります。

本学は 2026 年 9 月 1 日より、全学生・全教職員が複数の生成 AI を共通基盤から利用できる「全学 AI 基盤」および、AI ティーチングアシスタントと学ぶ教育プラットフォーム「キャンパスポータル」の運用を開始しています。「キャンパスポータル」は、出席・授業・AI との対話・授業ノート・振り返りをひとつになくことができる教育プラットフォームです。

今回の「Claude」全学導入は、この全学 AI 基盤の中核をなす取り組みのひとつとして位置づけられま





す。

※本学調べ(2026年10月時点、国内大学における公表事例に基づく)

※全教職員とは専任教員と全職員を指す。

【Claudeの全学導入にあたって】

■「配ること」と「使いこなせるようにすること」は、別である

大学が生成AIを学生に配布する例は、国内でも増えています。一方で、配った先で何が起きているのかを大学が把握し、授業の設計や指導につなげている例は多くありません。アカウントを配ることと、AIで考え、つくる力を育てることは、同じではないからです。

本学は、先に器をつくりました。9月に運用を開始した「キャンパスポータル」では、授業ごとにAIティーチングアシスタントが動き、学生一人ひとりの学びの記録が日々積み上がっています。今回全学導入をする「Claude」は、その器の中に置かれる先進的な道具のひとつです。

■回数を気にせず、使い倒せる環境

生成AIを使った制作や研究は、納得のいくものにたどり着くまで何度も試す作業です。学生が「あと数回試したいが費用が心配だ」と手を止める状態では、AIは道具として身につきません。

本学は全学AI基盤を通じて、学生が費用負担なく、十分な利用枠でAIを使える環境を整えています。今回の「Claude」の導入により、その環境で使えるAIモデルの選択肢がさらに広がります。

■学部から大学院まで、制作と研究の現場で

デジタルコミュニケーション学部(大学)では、3DCG/VFX、VR/AR、ゲーム、映像、グラフィック、Webデザイン、メディアアート、プログラミングから、企画・マーケティング・広報PRまで、学生が手がける制作活動のほぼ全域で「Claude」を活用できます。

デジタルコンテンツ研究科(大学院)では、新規事業のプランニングとプロトタイピング、調査・分析、論文執筆の補助など、理論と実務を架橋する研究活動に活用します。

■AI利用を前提とした教育設計へ

本学は、AIを使わせないための規則ではなく、AIを使うことを前提に課題を設計し、成果を評価する方向へ教育を組み替えていきます。成果物へのAI利用の申告、第三者の著作物や個人情報の取扱いといった学内規程も併せて整備します。

【文化芸術活動基盤強化基金による人材育成との連携】

本学は、文化庁「文化芸術活動基盤強化基金」を活用したクリエイター等の育成支援にも取り組んでいます。今回の「Claude」導入を含むAI活用の推進は、その一環としても位置づけられ、「AIネイティブな制作ワークフロー」を構築できるクリエイターの育成を、教育現場の環境整備の面から後押しします。

【導入の概要】

内容:「Claude」(Anthropic)

対象者: デジタルハリウッド大学の全学生・全教職員

利用環境: 全学AI基盤およびキャンパスポータルと連携し、大学アカウントから利用

開始時期: 2026年11月

主な活用内容:

[教育] 授業内外での学習支援、企画・脚本・リサーチ、制作プロセスにおける壁打ち





[研究]文献調査、データ分析、論文・レポート執筆支援
[大学運営]事務業務の効率化、学生対応の高度化

【Anthropic Japan 合同会社 代表執行役社長 東條 英俊様のコメント】

デジタルハリウッド大学様が、国内の大学として初めて「Claude」を全学に導入されることを、大変嬉しく思います。AI の活用が多岐に渡る仕事や社会生活に広がる中で、学生の頃から高度な AI を日常的に使い、その可能性と限界を理解した上で責任を持って活用する経験は、これからの社会で大きな糧になります。

同大学は「Claude」をはじめとする生成 AI を活用した全学 AI 基盤や「キャンパスポータル」を整え、AI の活用を前提とした実践的な教育へと踏み出されています。これを機に全学生、全教職員の皆さまが、制作や研究の現場で「Claude」を使いこなし、社会ですぐに活躍できる力を身につけていかれることを期待しています。

【デジタルハリウッド大学 [DHU]】



<https://www.dhw.ac.jp>

2005 年 4 月、文部科学省認可の株式会社立の大学として東京・秋葉原に開学（現在の所在地は東京・御茶ノ水）。デジタルコミュニケーション学部（4 年制大学）とデジタルコンテンツ研究科（専門職大学院）を設置している。

2026 年 4 月、二代目学長に藤井直敬が就任。初代学長・杉山知之が示した「すべてをエンタテインメントにせよ」を拡張し、新たな教学ヴィジョンとして「世界を満たせ」を掲げる。

デジタルコミュニケーション学部では、不確実で予測不能な未来を自分らしく生き抜く力を身につける。デジタルコンテンツ（3DCG/VFX、VR/AR、ゲーム、映像、グラフィック、Web デザイン、メディアアート、プログラミング等）と企画・コミュニケーション（ビジネスプラン、マーケティング、広報 PR 等）を産業界の第一線で活躍する教員から幅広く学べる一学部一学科制を採用。さらにグローバル人材を育成するために外国語の重点的な学習プログラムを備え、留学を推進している。世界 49 か国・地域出身の学生が在籍し、御茶ノ水駅前で多様性に富むキャンパスを運営している。

デジタルコンテンツ研究科では、超高度情報化社会においてデジタルコミュニケーションを駆使し、社会に変革を起こすリーダーを輩出すべく、創発的の学究領域 [SEAD (Science / Engineering / Art / Design)] の 4 要素をバランス良く身につけ融合し、理論と実務を架橋する人材育成を行う。新規事業プランニングとプロトタイピングなど、院生のアイデアの実装およびスタートアップ支援により「令和 7 年度大学発ベンチャー調査」（経済産業省）では全国大学中 17 位、私立大学 7 位となっており、多数の起業家を輩出している。

【当プレスリリースに関するお問い合わせ】

デジタルハリウッド株式会社 広報室：川村

mail: press@dhw.co.jp

TEL: 03-5289-9241

デジタルハリウッド公式サイト: <https://www.dhw.co.jp/>

過去のプレスリリース: <https://www.dhw.co.jp/press-release/>

